

**編集後記：**「天気」の編集に少し関わるようになりまして、毎月雑誌を出版することがいかに大変なことかと少しだけ感じています。気象学及び気象学会がさらに盛り上がるためには、「天気」がよく読まれることが重要な気がします。正直に言えば、私も“毎号とっても楽しみ”というわけではないのですが…。何か良いアイデアはないでしょうか。例えば、気象学会ならではの解説などはどうでしょうか。近年、数式を用いない入門書が流行りですが、難しい気象の数式を丁寧に

わかりやすく解説してもらいたい記事などはいかがでしょうか。数式に限らず、観測機器や、観測技術、気象モデルのスキームなども良いかもしれません。このようなものは、論文にはなりにくいですし、また、一般書として販売しても売れないと思うのですが、気象の教育という面では、大学のゼミや勉強会などで、とても役に立つような気がしています。

(高橋 洋)